一年の計　　2019.1月号

春名昌哉神父

　みなさん、新年明けましておめでとうございます。昨年も神さまの豊かな恵みのうちに

生きることができました。今年一年も神さまの恵みのうちに、昨年にも増して、神の国の

ために励むことができるように、心がけましょう。

昔から「一年の計は元旦にあり」と言います。私も１月１日の神の母聖マリアの祭日の説

教の中で、今年１年の目標を発表するようにしています。しかし、ここ数年は少しその傾

向が変わってきました。なぜなら、最初に立てた目標を守ることができていない自分に気

がついてからです。決して大それたことを言っていたわけではありません。「今年の目標

は体重を５キロ落とすことです」などという、本当に自分にとってだけの目標でした。さ

らに、最初の内は自分の言っていたことを意識して守ろうとするのですが、半年もすると

すっかり忘れてしまい、年末が来る頃にはその話を覚えている人々から、「あんまり変わ

ってないように見えますよ」、などと声をかけられる始末でした。

最初から大きな計画を立てても、自分にはできないことだと感じると、人はその目標を忘れ、最後には「そんなことを言ったっけ」などとなかったことにしてしまうことさえあります。もちろん、最初に決めた目標を最後まできちんと実行される方も大勢いらっしゃいます。しかし、意志の弱いわたしにはなかなかそれができないことに気づきました。それ以来、わたしの目標に変化が起こり始めました。いきなり大きな目標をたてるのではなく、まずは自分にできそうな、小さなことから始めることにしました。確かに達成感は大きな目標に比べれば小さいでしょうが、小さな目標を確実に積み重ねることが大切なことなのです。大きなことというのは、小さなことの積み重ねであって、まずここから始まる必要があります。

神の国も同じです。キリストの呼びかけに応えて、小さなことを積み重ねていくことが大切です。いきなり神の国が完成するわけではありません。わたしたち一人ひとりの小さな活動が、多くの人に伝わることになり、それが神の国の完成につながっていくのです。

わたしたちにできることは小さなことです。しかし小さなことでも始めなければ何も残り

ません。わたしたちの小さな活動の輪が広がるように努めることが大切なのです。

今年も少しでも神の国の完成に近づくことができるように、年の初めに当たって心を新たにして、神さまのために働く者となりましょう。